

「クリスマスと主の十字架」 ピリピ2：5～8

I 教会が互いにへりくだって主にある一致を保つために、その大切な土台、模範であるキリストの謙遜、クリスマスと十字架の姿が語られる→：5～8。キリストの謙遜と私達の謙遜は決して同等のものではない。キリストは、最高の榮譽の立場から最も低い所に下り来られた（クリスマス）。私達の謙遜は、まず自分自身の本当の罪深さを認める事→「だれでも、りっぱでもない自分を何かりっぱでもあるように思うなら、自分を欺いているのです。おのおの自分の行いをよく調べてみなさい。そうすれば誇れると思ったことも、ただ自分だけの誇りで、ほかの人に対して誇れることではないでしょう」（ガラ6：3，4）。神は、私達の人目に隠れた陰の行いも、すべての行いの心の動機も見抜いておられる。「あなたには、何か、もらったものでないものがあるのですか。もしもらったのなら、なぜ、もらっていないかのように誇るのですか」（Iコリ4：7）。すべては、神からの恵み！誇るのではなく神に感謝したい。I「あなたがたの間では、そのような心構え（へりくだり、自分の事だけではなく、他の人の事も顧みる心）でいなさい。それはキリスト・イエスのうちにも見られるものです」：5。私達、教会が、一致を保つ最大の秘訣がここにある。それは、私達を愛し、驚くべきへりくだりをもって人となり（クリスマス）、仕え、私達の罪の為に十字架で死なれた主をじっと信仰の目で見つめる事（ヘブル12：2）。人のした悪や不当な行為を心に思い根に持つ代わりに、キリストをじっと見つめ心に思いながら絶えず歩むことができますように。

II 私達が見つめるべきキリスト→1.「キリストは神の御姿（原語：姿、かたち）である方なのに、神のあり方（原語：神と同じ、等しくある事）を捨てられない（原語：手放したくない、固守しよう）とは考えず（原語：思わず、見なさず）」：6。私達は、あるものを握り締め、固守し絶対手放したくないと考える。※対比：アダムとエバは、「神のように」なろうとし（創3：5）神に罪を犯した。その人間の罪を赦し人間を救う為にクリスマスに来られたキリストは、逆の事をされた。偉大な神であられたのに、その特権を自発的に捨て、神であるのに「人となり」仕える者となり私達の罪の為に十字架の死にまで従われた。驚くべきへりくだり、従順、恵み！2. ①「ご自分を無にして（原語：空にする）」：7。聖書の欄外注※すなわち「特権を主張されずに」。神としての特権を主張されずに、へりくだり、永遠の神が時間の中に、無限の方が有限の世界に、偉大な創造主が人となられた。完全に人となり、また神であられた主。②「仕える者の姿をとり」：偉大な神が人となり、貧しくなり（王宮ではなく、家畜小屋でお生まれになった）、人々から顧みられない人々を差別せず心から愛された。御自身を裏切る弟子たちのよごれた足を洗われた。私達が人から裏切られる経験を理解される主！③「人間と同じようになられた。人としての性質をもって現れ」。罪人である私達人間の身代わりに十字架で死ぬ為に人なられた。クリスマスと十字架の恵みを切り離すことなく、アドベント（待降節。初臨と再臨の主の到来を待ち望む）を過ごしたい。「私たちの大祭司は、私たちの弱さに同情できない方ではありません。罪は犯されませんでした、すべての点で、私たちと同じように、試みに会われたのです」（ヘブル4：15）。私達の辛い経験を深く理解される主！3.「自分を卑しくし（原語：低くする、卑しくする、位を落とす、当然の権利を放棄する。2：3の「へりくだって」と同じ言葉）」：8。「しいたげと、さばきによって、彼は取り去られた」（イザ53：8）。主は私達の為にしいたげを受け、耐えられた。「道行く人は…イエスをの

した。…祭司長たちも…イエスをあざけって言った。「今、十字架から降りてもらおうか。そうしたら、われわれは信じるから」(マタ27:29-44)。栄光の主が、私達の為にへりくだり、辱めを受けて下さった。私達が、ののしられ辱められる時、理解して下さる主！「死にまで従い」：8。命を造られたお方、生死を支配するお方が、死にまで、へりくだり従われた。父なる神への服従として、私達の為に死を受け入れられた。死を迎える私達に寄り添われる主！「実に十字架の死（私達の罪の為に神に呪われた者としての死、私達人間のすべての罪の刑罰を味わわれる壮絶な死、神との交わりの断絶としての死）にまでも従われた」：8。そこに至るまで、主は私達の想像を絶する霊的な戦いを通られた（私達の霊的な戦いを理解される主！）→「ゲッセマネという所に来て…イエスは苦しみもだえ始められた。そのとき、イエスは彼らに言われた。『わたしは悲しみのあまり死ぬほどです。ここを離れないで、わたしといっしょに目をさましていなさい』それから、イエスは少し進んで祈って言われた。『わが父よ。できますならば、この杯をわたしから過ぎ去らせてください。しかし、わたしの願うようにはなく、あなたのみこころのように、なさってください』(マタ26:36-39)。主は、この想像を絶する霊的戦いを通り、実に十字架の死にまで御父に従い、私達の罪の為に死んで下さったのです。

Ⅲ このアドベントに、そしていつもこの主を見つめ、主から目を離さないで歩めますように。クリスマスと十字架の恵みへの私達の応答。1. 心からの感謝、賛美、礼拝。2. 主のへりくだりと愛を受け、私達も主を愛し従い、互いにへりくだり、互いのことを顧み愛し合い仕え合い、主にある一致を保ち主の教会を共に建て上げる。3. 主のクリスマス、十字架の愛、恵み、福音を祈りつつ家族、友人、知人に伝える。祈りつつクリスマス礼拝に誘う。「主イエスを信じなさい。そうすれば、あなたもあなたの家族も救われます」使徒16:31。「みことばを宣べ伝えなさい」Ⅱテモ4:2。「機会を生かして用いなさい」エペソ5:16。メッセージ、ポスター、案内、チラシすべてが用いられるように祈りましょう。